

# 甘味



7 白玉屋新三郎  
文豪あんみつ 880円

甘いものが好きだった漱石。好物であるアイスクリームと羊羹、こしあんをトッピングしたあんみつです。シロップには、こちらも漱石のお気に入りだった赤酒を使用。上品な甘さがあんみつと好相性！

漱石の好きなものを  
散りばめた贅沢甘味



まるで恋の味!?  
クセになる甘酸っぱさ

21 いくなりやわたなべ  
フルーツいきなり団子 250円(1個)

小説『明暗』で男女の複雑な想いを描く際に、印象的な存在として登場するリンゴ。そのシーンをイメージし、リンゴの甘酸っぱさとサツマイモの甘さが絶妙ないきなり団子に仕上げました。角切りリンゴの食感と、生地のもちもち食感もたまりません。



名作に登場する  
ジャムに思いを馳せて



20 福田農場  
吾輩はジャムである 648円(120g)

小説『吾輩は猫である』に登場する苦沙彌先生は、ジャムをなめる習慣があります。こちらのジャムは熊本産イチゴ「ゆうべに」を使用。鮮やかな赤色がみずみずしく、甘みと酸味のバランスも絶妙!

8 熊本城香梅庵  
肥後鐔 567円(8個入)

小説『坊っちゃん』には「それでも清は可愛がる。折々は自分の小遣で金鐔や紅梅焼を買ってくれる。」という話が出てきます。『香梅庵』特製の金鐔は、まるい三面焼きのきんつばです。



小豆の風味、格別  
熊本歴史ある金鐔



手がとまらない豆菓子  
素朴で懐かしい甘さ

11 あんたがたどこさ  
熊本駄菓子 落花生糖 216円(1袋)

ピーナッツなど豆菓子が好きだった漱石。「熊本駄菓子落花生糖」はピーナッツを水飴でからめたもの。香ばしさと甘さが絶妙にマッチしたお菓子です。



●書籍撮影協力／寫屋書店熊本三年坂  
「わが輩通り」  
1996年の漱石来熊100年を記念して整備された「藤崎宮下広丁」上熊本「崇城大学」間の通りです。

回子屋に先生もゐる漱石忌  
(回子屋に入っていく顔見知りの先生を発見し、「そういえば今日は漱石の命日だったな」と思いを馳せた句です。「坊っちゃん」を連想して鑑賞いただけただけらしいです。)

秋時雨漱石のごと筆を執る  
(外の秋時雨を眺めながら、なんとなく物思いにふけっている作者。自分の中の鬱屈した気持ちをつと筆をとって表現してみようと思つた句です。)

上村 地嘗

月眩し城の瓦礫も輝いて  
(満月の明るい月を見ながら熊本への復興を感じたという句です。)

原田 彩乃

月連れて四百年の城めぐる  
(月の出ている夕べに熊本城を訪れている人々。築城以来さまざまなことがあった熊本城を、(つぶさ)に見てきたのは月だと思ひ、そんな月にガイドしてもらっているようなイメージで読みました。)

安永 早春香

夢語るごと辛夷の実ほこぼれ  
(辛夷の実がこぼれるように落ちる様子が、人が話をしてるように見えたという句です。)

内田 京花

漱石の旧家に生まる赤とんぼ  
(漱石のいない旧家で生まれる新しい生命。同じように漱石の意思や志をこの熊本で受け継いでいる人がいるのではないかと感じて作りました。)

受験生吾輩どおりを息白く  
(これから受験の時期。信愛を受験する中学生や、これから大学へ向かう先輩方の様子を描写しました。)